

■コメント

1. 感染性胃腸炎

定点当たり5.83人と、例年同時期に比べて報告数が多い状況が続いています。

これからの季節はノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎が流行するため、手洗いの励行や便・吐物の適切な処理など感染予防対策を徹底しましょう。

2. インフルエンザ

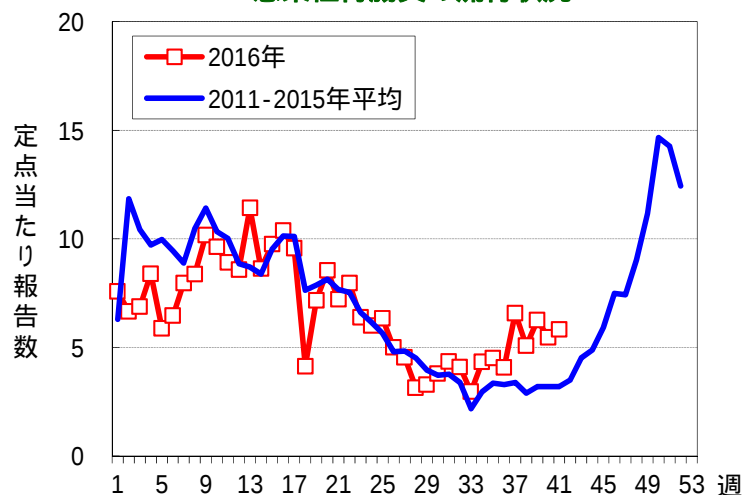
市内の定点医療機関から、15人(定点当たり0.41人)の報告がありました(迅速診断キット:A型陽性13人、B型陽性2人)。例年同時期に比べ報告数が多くなっており注意が必要です。

ワクチン接種は効果が出るまでに2週間程度かかるので、早めの接種をお勧めします。手洗い・うがいの励行、咳エチケットなど感染予防に努めましょう。

3. 重症熱性血小板減少症候群

1件の報告があり、今年の累計は2件となりました。(次頁参照)

感染性胃腸炎の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	15	0.41	0.01	△	小児科	流行性耳下腺炎	5	0.21	0.71	△
	咽頭結膜熱	5	0.21	0.26	△	眼科	RSウイルス感染症	29	1.21	1.12	△
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29	1.21	1.25	△	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	△
	感染性胃腸炎	140	5.83	3.20	△	眼科	流行性角結膜炎	9	1.13	0.80	△
	水痘	6	0.25	0.45	△	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	△
	手足口病	34	1.42	1.23	△	基幹	無菌性髄膜炎	-	-	0.06	△
	伝染性紅斑	3	0.13	0.13	△	基幹	マイコプラズマ肺炎	9	1.29	0.26	△
	突発性発しん	14	0.58	0.54	△	基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	△
	百日咳	1	0.04	0.08	△	基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	△
	ヘルパンギーナ	8	0.33	0.27	△						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	122	女性(50歳代)
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	13	女性(20歳代)・O157
4	重症熱性血小板減少症候群	1	2	女性(70歳代)

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウィ ルス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎	(ロタウ イルス)	感染性 胃腸炎
報告数	広島市	第37週	-	12	45	158	12	17	10	8	1	8	18	39	-	5	-	-	2	-	-	-
		第38週	4	4	30	122	10	25	2	13	3	8	12	23	-	3	-	-	4	-	-	-
		第39週	6	6	32	150	14	27	9	10	1	12	12	21	-	5	-	-	7	-	-	-
		第40週	12	5	44	131	4	33	4	15	1	26	13	32	-	7	-	1	1	-	-	-
		第41週	15	5	29	140	6	34	3	14	1	8	5	29	-	9	-	-	9	-	-	-
定点 当たり	広島市	第37週	-	0.50	1.88	6.58	0.50	0.71	0.42	0.33	0.04	0.33	0.75	1.63	-	0.63	-	-	0.29	-	-	-
		第38週	0.11	0.17	1.25	5.08	0.42	1.04	0.08	0.54	0.13	0.33	0.50	0.96	-	0.38	-	-	0.57	-	-	-
		第39週	0.16	0.25	1.33	6.25	0.58	1.13	0.38	0.42	0.04	0.50	0.50	0.88	-	0.63	-	-	1.00	-	-	-
		第40週	0.32	0.21	1.83	5.46	0.17	1.38	0.17	0.63	0.04	1.08	0.54	1.33	-	0.88	-	0.14	0.14	-	-	-
		第41週	0.41	0.21	1.21	5.83	0.25	1.42	0.13	0.58	0.04	0.33	0.21	1.21	-	1.13	-	-	1.29	-	-	-
	全国	第39週	0.16	0.28	1.50	3.64	0.28	1.08	0.15	0.49	0.03	0.98	1.20	1.73	0.03	1.01	0.02	0.07	1.18	0.02	0.01	0.01
		第40週	0.23	0.26	1.61	3.69	0.29	1.39	0.12	0.47	0.02	1.02	1.11	2.32	0.01	0.97	0.04	0.06	1.33	0.02	0.01	0.01

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	嘔吐 下痢	7	男	2016/09/12	糞便	ノロウイルスG2群
その他の呼吸器疾患	発熱(40.0) 上気道炎	2	男	2016/08/29	咽頭拭い液	エンテロウイルスNT
その他の呼吸器疾患	気管支炎	3	男	2016/09/04	咽頭拭い液	ライノウイルス 肺炎マイコプラズマ
その他の呼吸器疾患	気管支炎	3	男	2016/09/04	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の発疹性疾患	発熱(40.0) 丘疹 下痢 肝機能障害 頭痛	76	男	2016/09/30	血液	リケッチャジャポニカ
その他の疾患	発熱(38.0)	0	女	2016/09/06	咽頭拭い液 糞便	コサッキーウイルスB3型
その他の疾患	肝機能障害 熱性痙攣	1	女	2016/09/07	咽頭拭い液	RSウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう

- 重症熱性血小板減少症候群(SFTS) / 日本紅斑熱 / つつが虫病 -

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、SFTSウイルスを保有するマダニに吸着されることにより感染する病気です。潜伏期間は6日～2週間で、主に発熱や消化器症状(食欲低下・嘔気・嘔吐・下痢・腹痛)が出現します。西日本を中心に、**マダニの活動が盛んな春から秋にかけて患者が発生しています。**

このほかに、日本紅斑熱やつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

- ・山や草むらに入るときは、**長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、皮膚の露出を少なくし、ダニの付着を防ぎましょう。**
- ・屋外活動後は入浴し、**ダニが付着していないかチェックしましょう。**

ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、発熱等の症状が出た場合は医療機関を受診してください。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2016年第41週(10月10日～10月16日)